

	発行者の略号	東書	大日本
	書名	新しい理科	たのしい理科
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫 (7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①概ねよい。 ①問題解決の各段階を1本のラインで結び、学びのラインにそって児童が見通しをもって学習できるよう工夫されている。 ②「理科のミカタ」を用意し、具体的、自覚的にじっくり考え、問題解決する力を育てられるよう設定している。 ③「学びを生かして深めよう」を設定し、日常生活の事象について知識の深化させる工夫が用意されている。また、「振り返ろう」で成長を実感し、学び続ける態度を育成できるよう設定している。6年生「地球に生きる」の「学びを生かして深めよう」の中で「SDGs」のことについて触れている。	①概ねよい。 ①学習単位ごとに基礎・基本をまとめ、定着させる問題を用意し、基本的な学習内容を確認できるようにしている。 ②学んだことから日常生活に置き換え、問題を見つける発問がある。 ③「りかのたまたまばこ」や「サイエンスワールド」など読み物資料を用意し、学びに向かう力や人間性の涵養を図っている。
	(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①小田原市など関連市町の情報がある。	①小田原市②箱根町など関連市町の情報豊富にある。
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①対話の具体例を示し、進め方や互いの考えを聞き合うことで、「対話的な学び」を豊かに展開させようとしている。 ②他教科の既習内容や生活経験との関連を図りながら学ぶことができるように「学んだことを使おう」が設けられている。 ⑤3年、導入期に飼育・栽培体験がある。6年「電気と私たちの暮らし」では、電気の有効利用について考えるなかで、プログラミングを体験する活動を扱っている。 ⑦無料のデジタルコンテンツへQRコードから接続できるように表示している。 ⑨問題解決の流れが一目でわかるようレイアウトしている。	①巻頭に「理科の学び方」がまとめられてあるので、立ち返りやすい。 ②算数で学習する理科と関連する内容を示してある。 ③理科ノートの書き方を丁寧に指導できるよう事例を示している。 ④理科の中で道徳的な観点から大切な生命尊重、環境保全、伝統文化の尊重などにかかわる資料が取り上げられている。 ⑤体験活動の際の留意点が明記されている。体験的なものはやや発展的なものがある。 ⑥中学年でも中学校で学ぶことを触れており、学びの系統性をはっきりさせている。 ⑦ARアプリとQRコードを使って3次元映像や動画コンテンツへのアクセスができるよう工夫している。
	(エ) 分量・装丁・表記等 ①各内容の分量とその配分は適切であるか。 ②体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮されているか。 ③文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①教科書のサイズが他社より大型のA4版であり、情報量が多い。 ②全体の色調を緑色で統一し、児童が落ち着いて学ぶことができるよう配慮している。 ③観察、実験と結果及び「まとめ」は同じ見開きに示さない構成とし児童が自分たちの結果からまとめることができるようになっている。	①余裕をもって学習できるよう標準時数よりも少ない時数で計画されている。 ③実験や観察の図や写真が大きくてインパクトがある。
(イ) 教科・種目別の観点	①観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、児童の発達段階に即した工夫や配慮はなされているか。	①観察、実験の際に必要な基礎技能は、巻末の「資料」にまとめて示して、必要なときにすぐに確認できるようにしてある。また、「使い方を理解しよう」、「意味を理解しよう」などを設け、使い方やしくみの意味理解を図ることができるように工夫してある。	①ポイントによって、観察実験の際に配慮する項目が明確になっている。
	②観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や内容の工夫や配慮はなされているか。	②3年の導入期の飼育・栽培体験など既存の考えを揺さぶる具体的な活動を用意し、興味・関心を高め、疑問を引き出す工夫がされている。	②理科の問題解決の流れを明確にして、進捗を確認しながら学習できるように配慮してある。目次に各学年の特に大切にしたいところが明記されている。
	③「理科の見方・考え方」を働かせて、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するよう、観察、実験などに工夫や配慮はなされているか。	③「理科のミカタ」で理科の見方・考え方を働かせるためのヒントを示し、問題解決していく児童の深い学びを支援している。5年では、「計画をしよう」の中で結果の見通しをもたせる工夫がある。	③理科の見方をキャラクターの台詞で表す手法を用いている。また、理科の考え方を、観察・実験の関係づけを例示することで無理なく関係づけを働かせるよう工夫している。

	発行者の略号	学図	教出
	書名	みんなと学ぶ 小学校理科	未来をひらく 小学理科
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	①概ね良い。	①概ね良い。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①1年間の見通しを領域ごとに示し、そこで働かせる見方・考え方に触れさせ、学年末で内容を整理し確認している。 ②少数意見も尊重した合意の形成を促している。 ③防災、暮らしの中など学びが社会とつながっていることが分かる。	①学びを系統的につなげるための工夫がある。科学的な概念や基礎技能を確実に習得するための工夫がある。 ②観察・実験の結果から自分の予想をふり返り、より妥当な考えをつくることのできるような工夫がある。子どもが仮説を立てる過程において、先生が子どもに問いかける場面を設定し、育てたい思考力・判断力・表現力を具体的に表現している。
	(4) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①小田原市など関連市町の情報がある。	①小田原市など関連市町の情報がある。
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①事象での驚きや発見を伝えたい思いが表現力を育むという考えのもと、実験結果から話し合い考察していくよう構成している。 ③言葉だけの暗記、なんとなくの理解が説明活動をする中で明らかになり、活動を振り返ることができる。巻末の考えよう調べようの中に「伝える聞く」の具体的に例示が示されている。 ③子ども同士が伝え合う中で、理科の見方・考え方を働かせて考えることができるように、既習内容や経験をもとに話し合う場面を設定している。 ⑤栽培時期や身近に活動できるものが用意されている。 ⑧縦表示の流れバーに沿ってチェック欄があり、ステップ学習ができるようにしている。 ⑨巻頭の学ぶ領域と巻末の「学年で学んだこと」がつながっている。	①「〇〇さんのごもん・気づき」などから問題設定をしている。子どもたちの言葉になっていて、展開しやすい。 ②国語科で学んだ力を理科の学びで生かすことが大切であるという考えから、各学年で大切にしたい言葉を発達段階に応じて明記している。観察カードやノートの記事例を豊富に用意している。 ③巻頭の「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」では、考えを伝え合い、協働して学習に取り組むことの大切さを表現している。 ⑥各単元の初めに「学習のつながり」を示し、中学校につながる学習内容の系統性を意識できるようにしている。また、いくつかの単元の終末に「ステップアップ」を掲載したり、巻末に「もうすぐ中学校」を掲載したりして、中学校へスムーズにつながるように工夫している。 ⑨実験の趣旨や方法が分かりやすく細かく示されている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮されているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①ページ13%増を重量7%増に抑えている。標準時数の90%以下で指導できるよう計画されている。このため、発展やものづくりなど多様な学習活動への時間的配慮がなされている。	②本文や科学読み物は親しみやすい敬体で、子どもが主体的に取り組む観察・実験などは常体で記述してある。重要な用語については太字とマーカー処理で強調している。 ③国語科の漢字指導と関連させてある。	
イ 教科・種目別の観点	①観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、児童の発達の段階に即した工夫や配慮はなされているか。	①手順が分かりやすい図を示し、自分で操作しやすい工夫がある。技能を要する操作活動は巻末に示されており、流れとともに確認手続きが示されている。	①条件整理をするときのポイントとなる事象を写真で示している。5年では、発芽の条件について適切な実験ができるように促している。また、学びをもとに子どもたちがチャレンジしたくなることが設定されている。(チャレンジ)
	②観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や内容の工夫や配慮はなされているか。	②単元の初めにある「調べていこう!!」では、学習に見通しをもって取り組める工夫がなされている。また、ページごとに学習のどの段階を扱っているかが分かるようにしてある。	②アトムのナビゲーションで学習を具体的に展開している。巻頭には「学習の進め方」を用意し、見通しをもって学習に取り組めるようにしている。
	③「理科の見方・考え方」を働かせて、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するよう、観察、実験などに工夫や配慮はなされているか。	③調べるときの「比べる」「関係づける」「条件をそろえる」「いろいろな方向から考える」の四つの考え方を巻頭で示し、四年間で獲得できるよう編集している。	③各単元において、子どもたちが理科の見方・考え方を働かせながらそれぞれの考えを伝え合い、イラストとともに考えを修正していく姿を取り上げ、自らの考えを修正しつつ、知を獲得していく姿をていねいかつ具体的に表現している。

	発行者の略号	啓林館	
	書名	わくわく理科	
(ア) 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	概ね良い。	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①「自然の不思議をとき明かそう！」を設け、「1見つける 2調べる 3振り返る」で問題解決の全体の流れを把握することができるようにしている。「まとめノート」や「たしかめよう」を設け、学習内容が確実に定着するようにしている。 ②巻末に「理科をふり返ろう～理科の見方～」、「理科の考え方をはたらかせよう」を設け、問題解決の過程で根拠ある予想を立てるを具体的な事例で示している。 ③「理科の広場」や「つなげよう」で社会や日常生活の場面を取り上げ、理科を学ぶ有用性を実感できるようにした。地面を流れる水のゆくえで防災への意識を持たせるようにしている。	
	(イ) 市町の方針との関連 ①小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①小田原市②箱根町などの関連市町の情報が豊富にある。	
	(ウ) 内容と構成 ○ 小学校学習指導要領（平成 29 年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ②他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③言語能力の確実な育成 ④伝統や文化に関する教育の充実 ⑤体験活動の充実 ⑥学校段階間の円滑な接続 ⑦情報活用能力の育成 ⑧児童の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨児童にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「問題」の前に「問題をつかもう」を入れ、子ども同士の話し合いから問題を見つけられるようにしている。 ②単元によって多くの教科との関連が明記されている。 ③巻末の「話し合いのしかた」では、話すとき聞くときの要点が例示されている。 ⑥興味・関心に応じて、中学校以降の学習内容など、学習をさらに深めたり広げたりできる箇所に「発展」のマークを表示している。 ⑦巻末に「プログラミング用シート&シール」あり、プログラミング学習に活用できるようになっている。 ⑨系統的に順序性を確保した上で、季節的な不具合を生じないように野外観察・飼育栽培に適した時期を考慮している。	
(イ) 教科・種目別の観点	(エ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、児童が使いやすいような工夫や配慮されているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、児童が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①子ども自ら活動し、ゆとりをもって問題解決学習をおこなうのに適切な時数の配分がしてある。水温が高い9～10月頃「水溶液の性質」を設定し、短時間で反応がでるように配慮している。 ②文字や写真が大きくて見やすい。6年の熊本地震など最新の資料が掲載されている。	
	①観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするために、児童の発達段階に即した工夫や配慮はなされているか。	①QRコードが、ページの中のポイントで随所に提示されており、活用しやすくなっている。	
	②観察、実験などは、学年を通して育成を目指す問題解決の力を養うよう、配列や内容の工夫や配慮はなされているか。	②問題解決の流れが一目でわかるように、問題解決のステップをフラッグで示し、ラインで1本につないでいる。「けっか」「けっかから考えよう」「まとめ」を区別することで混同しがちな結果と考察・結論の区別をつけやすくしている。	
	③「理科の見方・考え方」を働かせて、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するよう、観察、実験などに工夫や配慮はなされているか。	③巻末に「6年の理科をふり返ろう～理科の見方～」を設け、領域ごとに特徴的な視点で自然をとらえたことをふり返るようにしてある。また、「理科の考え方をはたらかせよう」では、6年で育成すべき問題解決の力を具体的な事例をもとに示してある。	